

学生の看護実践能力習得の基盤となる成熟性を育てるための 教育的アプローチの分析

政平 憲子, 吉田 亜紀子

高知学園短期大学紀要 第45号 別刷 (平成27年3月)

Reprinted from Bulletin of Kochi Gakuen College, No. 45 (March, 2015)

報 告

学生の看護実践能力習得の基盤となる成熟性を育てるための教育的アプローチの分析

政平 憲子*, 吉田 亜紀子

要約：本研究の目的は、学生の看護実践能力習得の基盤となる成熟性を育てるための教員による教育的アプローチについて明らかにすることである。本学看護学科において看護基礎教育の講義、演習、実習に携わる教員を対象とし、質的帰納的研究デザインを用いて研究を行った。その結果、看護学生の成熟性を育てるための教員による教育的アプローチとして、【看護職を目指すためのマナーや規範を示す】【視野を広げる】【熟考を促す】【学びの仕掛けをつくる】【学習の方法を伝える】【過度の緊張を解く】【学びとして認識できる根拠を伝える】【学生の行動を導く】【肯定的に返す】の9つのカテゴリーが抽出された。教員は、学生の成熟性を育てるために、様々な場面を通して、社会に出るまでの期間十分にアプローチすることが必要であると考えられた。

キーワード：看護基礎教育, 看護学生, 成熟性, 教育的アプローチ

I. はじめに

本学看護学科においては、豊かな人間性や専門職としての倫理観に基づいた看護の知識と技術の習得に向けた教育を展開している。しかし、目標達成が困難な学生に対し、教員の指導方法が確立されておらず、このことが教育上の課題として挙げられていた。2012年度には本学看護学科において看護基礎教育課程における学生の看護実践能力習得の課題に関する調査を実施し、看護学を学ぶ学生の「成熟性」に関する課題が明らかとなった¹⁾。

看護学生の成熟性を育てるためのアプローチに関しては、海外において認知行動療法の効果に関する研究²⁾が行われており、独自のプログラムに沿って看護学生に認知行動療法を実施した結果、コントロール群と比較して専門職としての姿勢に

関する成熟性が有意に高まったとの報告がある。また、リフレクションの概念を中心とした専門職としての成熟性のモデルをセルフ・マネジメントの視点から提唱した研究³⁾やさまざまな年齢の看護大学生を対象に発達段階から見た成熟性と対処行動との関係を調査した研究⁴⁾などがある。しかし、国内においては看護学生の成熟性を育てるためのアプローチに関する研究は見当たらない。そこで本研究においては、学生の看護実践能力習得の基盤となる成熟性を育てるための教員による教育的アプローチについて明らかにすることを研究目的とした。

II 用語の定義

1. 成熟性：看護師としての知識・技術・人間性が発達し専門職者としての自立が可能な状態に成

長すること

2. 教育的アプローチ：成熟性を育てる教育的かわり

Ⅲ 研究方法

1. 研究デザイン

本研究は、看護学生の成熟性を育てるための教育的アプローチの内容を質的に明らかにすることを目的とするため、質的帰納的研究デザインを用いて研究を行った。

2. 研究対象

本学看護学科において看護基礎教育の講義、演習、実習に携わる教員を対象とした。

3. データ収集方法

2012年度に実施した調査¹⁾によって抽出された看護実践能力を修得するうえでの課題のうち、『成熟性に関する課題』として抽出された項目にそって、独自に作成したシートを用いてデータを収集した。

『成熟性に関する課題』には、「社会性の獲得」「学習習慣の確立」の2つの大カテゴリーがあり、10個の中カテゴリー、28個の小カテゴリーが含まれている。これらの項目を参照しながら、教員が本学における教育において経験した「成熟性に課題を感じた場面の状況」「教員のかかわり」について問い、詳細に記述してもらった。

4. データ分析方法

得られたデータを質的に分析した。研究目的に沿って、看護学生の成熟性を育てるための教育的アプローチの内容を抽出した。記述されたデータをコード化し、類似した内容のものをまとめ、カテゴリー化した。

5. 倫理的配慮

次の点について、対象者に文書で説明し、同意書にサインを得た。

1) 得られたデータは個人が特定できないように扱い、プライバシーの保護を厳守する。

2) 得られたデータは鍵のかかる場所で保管する。

3) 得られたデータは研究終了後シュレッダーで処理する。

なお、本研究は高知学園短期大学研究倫理審査委員会の承認を得ている（承認番号第32号）。

Ⅳ 結果

1. 対象者の概要

本学で看護基礎教育に携わる教員6名を対象とした。年齢は30～50歳代、看護学科教員経験年数は1～16年であり、看護学科の講義、演習、実習に携わっていた。

2. 看護学生の成熟性を育てるための教育的アプローチ

得られたデータを質的に分析した結果【看護職を目指すためのマナーや規範を示す】【視野を広げる】【熟考を促す】【学びの仕掛けをつくる】【学習の方法を伝える】【過度の緊張を解く】【学びとして認識できる根拠を伝える】【学生の行動を導く】【肯定的に返す】の9個のカテゴリーと33個のサブカテゴリーが抽出された（表1）。

以下本稿ではカテゴリーを【 】、サブカテゴリーを[]とする。

1) 看護職を目指すためのマナーや規範を示す

【看護職を目指すためのマナーや規範を示す】とは、講義や演習、実習の中で、学生が専門職業人である看護職者としての基礎となるマナーやルールを伝える必要があると教員がとらえたことに対し、あるべき姿を丁寧な言葉を使い正しい挨拶を示すことである。丁寧な言葉遣いを教員自らが先行い学生に示すことや、夕方でも「おはようございます」という学生に対し正しい挨拶を教員が実践していた。

さらに、時間を守ることが、患者の命を守るという看護職としての専門性につながることや整髪や清潔なユニフォームを着用することが患者や家族から信頼感を得るための基本であるといったことを伝えることで、専門職としての規範意識を育てるかわりを行っていた。[丁寧な言葉を使い正しい挨拶を示す][時間の守り方を示す][整髪、化粧、清潔なユニフォームの着方を示す]の3個のサブカテゴリーが抽出された。

2) 視野を広げる

表1 学生の成熟性を育てるための教育的アプローチ

カテゴリー	サブカテゴリー
看護職を目指すためのマナー や規範を示す	丁寧な言葉を使い正しい挨拶を示す
	時間の守り方を示す
	整髪、化粧、清潔なユニフォームの着方を示す
視野を広げる	自己中心から対象中心への思考の転換を導く
	他のメンバーの意見を聞くよう促す
	周囲に目を向けることを促す
	情報の共有を促す
熟考を促す	根拠をたずねる
	思考を言語化できるように促す
	問いかけて待つ
	諦めずに考えることを促す
学びの仕掛けをつくる	学びや体験の仕掛けをつくる
	モデルを示す
	型を示す
学習の方法を伝える	事前学習することを促す
	指導者に話しかけるタイミングを指導する
	学習のプロセスを一緒にたどってみせる
	スケジュールを管理することを促す
	根拠とともに方法を示す
過度の緊張を解く	学習目標到達度のハードルを下げる
	気持ちを理解していることを学生に伝える
	場のコントロールを調整する
	和やかな雰囲気をつくる
学びとして認識できる根拠を 伝える	学習の必要性を説明する
	根拠とともに教員の考えを伝える
学生の行動を導く	メリットを伝える
	目的を示す
	説明する
	発言を促す
	行動を促す
	先の見通しを示す
肯定的に返す	肯定的なフィードバックを返す
	学習の成果を実感できるように返す

【視野を広げる】とは、実習中など緊張が影響し視野が狭くなっている学生に対し、対象の立場に立つことや周囲に関心を向けるよう促すことによって周りを見ることができるようにする関わり

である。対象中心の思考は学習成果に影響し、対象者のニーズに沿った援助を導き出すことが可能となる。また、周囲に目を向けることによって、看護師や実習メンバーからの学びに繋げることが

可能となる。[自己中心から対象中心への思考の転換を導く][他のメンバーの意見を聞くよう促す][周囲に目を向けることを促す][情報の共有を促す]の4個のサブカテゴリーが抽出された。

3) 熟考を促す

【熟考を促す】とは、1つのことを深く考えるように促すということである。答えを急いでしまったり、自分で答えを見つけることができないと思っているような学生に対し、教員がたずねたり、待つことによって学生が考えを深め、自分の考えによって根拠のある答えを出すことができるようなかわりのことである。[根拠をたずねる][思考を言語化できるように促す][問いかけて待つ][諦めずに考えることを促す]の4個のサブカテゴリーが抽出された。

教員は、「もう少し考えてみて」と考える時間を作ったり、考えるために実習に来ていると説明したり、質問の仕方を変えてみたり、答えがない場合はヒントを投げかけてみるなどさまざまな方法で熟考を促していた。

4) 学びの仕掛けをつくる

【学びの仕掛けをつくる】とは、教員が知識や方法などを直接教えるのではなく、学びに導くための体験やモデルなどの仕掛けをつくっておくことである。実習での体験をカンファレンスのテーマとして選択するよう準備をしたり、発表内容の構成や発表の方法についてパターン（型）を示し発表をさせることで発表の成功体験を導くなどがあり、[学びや体験の仕掛けをつくる][モデルを示す][型を示す]の3個のサブカテゴリーが抽出された。

5) 学習の方法を伝える

【学習の方法を伝える】とは、専門領域での学習において何を何からどうしてよいのか分からないという状態の学生に対して、学習の方法を伝えることである。[事前学習することを促す][指導者に話しかけるタイミングを指導する][学習のプロセスを一緒にたどってみせる][スケジュールを管理することを促す][根拠とともに方法を示す]の5個のカテゴリーが抽出された。専門領域の学

習においては、たとえば学内での演習では、当日ユニフォームを着て参加すればよいというものではなく、事前に教科書や参考書を読み、レポートにまとめ、手順を頭の中に入れてから演習に参加するといった事前学習が必要となってくる。また、実習においては、受け持ち対象者に基本的看護技術を提供する際、事前に学習したり、手順を復習しておくことは大変重要なことである。このような事前学習を行っておくことの重要性を学生に伝えるところからが教育的アプローチに含まれていた。

6) 過度の緊張を解く

【過度の緊張を解く】とは、学生が教員の指導をきびしく捉え過ぎるなどして萎縮してしまわないように、学生の力が十分発揮できるようにすることを目的として緊張の強さを多少和らげることである。

課題の量を調整したり、精神面でのサポート、和やかな雰囲気をつくるなどがあり、[学習目標到達度のハードルを下げる][気持ちを理解していることを学生に伝える][場のコントロールを調整する][和やかな雰囲気をつくる]の4個のサブカテゴリーが抽出された。

7) 学びとして認識できる根拠を伝える

【学びとして認識できる根拠を伝える】とは、学生が納得できるように教員の指導の根拠を伝えるということである。なるほどそうか、というところまで教員の思いが伝わってこそ、学生は学習行動に移ることができるのである。[学習の必要性を説明する][根拠とともに教員の考えを伝える]の2個のカテゴリーが抽出された。

8) 学生の行動を導く

【学生の行動を導く】とは、学生のやってみようという気持ちを引き出すためのかわりである。初めての経験に対して、自信のなさや慎重さ、不安などから手を出すことに戸惑っている学生に対し、そっと背中を押したり、声をかけることで学生は勇気を出してチャレンジできる。[メリットを伝える][目的を示す][説明する][発言を促す][行動を促す][先の見通しを示す]の6個のサ

ブカテゴリーが抽出された。

たとえばカンファレンスの[目的を示す]ことによって、自分の発言がカンファレンスの目的に沿っていることを意識することができ、ディスカッションを深めることができる。カンファレンスにおいて、自分の意見に自信を持って発言できる学生もいれば、よい意見を持っていても自信がなく発言できない学生もいる。自信のない学生に対しては、考えていることが間違っていないことを伝えるなどにより[発言を促す]ことによってカンファレンスへの参加ができるようにアプローチしていた。また、[行動を促す]については、カンファレンスなどで助言を受けた内容や学生が行ってみたいと考えている援助について、計画を立てて行動化できるように指導や助言を行うなどのアプローチをしていた。

さらに、[先の見通しを示す]ことによって、今何をする必要があるのかを考えさせ、行動できるようアプローチをしていた。

9) 肯定的に返す

【肯定的に返す】とは、学生の学びや経験を肯定的にフィードバックすることで、学生に自信をつけるかかわりである。専門領域の学びにおいては目標に到達するには時間がかかり、やってもやっても終わらないというような気持ちに陥ることがある。学生の学習動機を持続させるためには、部分的に達成できていることをフィードバックしていくことも大切である。[肯定的なフィードバックを返す][学習の成果を実感できるように返す]の2個のサブカテゴリーが抽出された。

V 考察

1. 看護学生の成熟性を育てるための教育的アプローチ

高度化する医療を担うため、看護学の領域も高度な知識・技術・実践が求められているなかで、3年間の教育カリキュラムのもとで看護師を育成する本校において、教育内容を工夫し学生の成長を最大限引き出すためのかかわりは大変重要である。

専門領域の学習においては、高等学校を卒業した学生にとっては初めての経験の連続といえる。演習や実習も多く、学習の量も多くスピードも速いため、高等学校までに実践していた学習方法だけではうまくいかない場合があるのではないかと考える。そこで学生にとっては新たな学習方法の獲得が必要となってくるといえる。ノートをまとめたり、レポートを書くこともそうであるが、臨地実習においては医療の現場での患者とのコミュニケーションや医療スタッフとのコミュニケーションも大切な学習である。これらを学生がどのように学んでいくことができるかについては、教員のかかわりが非常に重要である。

本研究において、成熟性に関する課題があると教員がとらえた場面の1つに、自分の力で考えず、すぐに正解を求めようとする場面があり、そのことに対して教員は「熟考を促す」というアプローチを実践していた。

菱沼⁵⁾によると、近年看護学生の特徴として「考えるプロセスより正解を求める」ことがあげられ、このことは大学生全般の課題でもあると述べられている。このことに対し、「聞く機会を増やす」という工夫を行っていると述べている。

福井⁶⁾は、看護基礎教育における「問うこと」に関する文献検討を行い、教師の問うことに内包される意図として「学生の認知能力を高め、論理的思考、創造的思考を促す」ことがあると述べている。本研究によっても、学生に対し様々な場面で「問うこと」によって熟考を促し、成熟性を育てるかかわりを実践していた。しかし、学生の中には、わからないことをどうやって考えたらよいのかわからないことでのストレスを感じる者もある⁷⁾と考える。『考える』という行為が重要であることを教員も学生も大切にすることへの共通認識を形成していくことも重要であると考ええる。

看護学の学習においては人へのかかわりが重要である。しかし、過去の体験や、核家族化、生活環境の変化などの影響によって人と関わることに慎重になっている学生も見受けられる。そのような学生に対しては、教員がモデルとなり【看護職

を目指すためのマナーや規範を示す】【学習の方法を伝える】ことでの【学びの仕掛けをつくる】を意図的に行い、学生の背中を押すかわりが重要であると考え。そして、学生が一步踏み出して、他者へのかかわりを行った結果、どのような学びや成長があったのかを教員による発問や対話というアプローチを通して学生にフィードバックすることが重要であると考え。このようなかわりによって学生の【視野を広げる】ことや【熟考を促す】という学びにつながると考える。

伊藤ら⁸⁾の研究においては、看護学実習において学生にとっては「患者との関係性」が看護実践能力への自信度に関連しているという結果が得られている。【学生の行動を導く】などの方法を用いながら、患者との関係性の構築に向けた関わりも有効であると言える。

福井⁶⁾は、リフレクションの1つの方法として critical questioning を用いた教員と学生の対話の有用性を述べている。その中で、critical questioning では正しい答えを求めるというよりも学生の実践での思考過程に焦点を当てて問うことであり、学生は教員から問われることにより、実践にかかわる知識の内容と共に、いかにしてその知識に至ったか、どのように考え行動したかを明確にしていくことができると述べている。

福井⁶⁾が述べているように、教員は、実習や演習において、学生が学びとしてとらえていない場面について、学生の思考過程や実践内容を学生がどのように考えたり感じたりしていたのかを確認し、学生の思考過程における判断の根拠や実施後の内省に繋がるように【学生の行動を導く】ことが必要な役割であると考え。また、学生が学びとして捉えられていないことを学びとして認識できるように【学びとして認識できる根拠を伝える】というかわりをおして、学生の考えや実践内容について【肯定的に返す】ということが指導において重要であると考え。この【肯定的に返す】というフィードバックを学生に行うことで、自分の考えや行った内容を学びとして捉え、達成感の獲得が成熟性を育てることに繋がると考える。

以上のことから、先行研究で抽出された「社会性の獲得」「学習習慣の確立」から構成される『成熟性に関する課題』を解決していくためには、本研究で抽出された9つのカテゴリー内容を意図的に用いて教育的アプローチを行うことが有効であると考え。

「社会性の獲得」については、教員の【看護職を目指すためのマナーや規範を示す】【視野を広げる】という教育的アプローチを意図的に行うことが成熟につながっていくと考える。また、「学習習慣の確立」についても【熟考を促す】【学びの仕掛けをつくる】【学習の方法を伝える】【過度の緊張を解く】【学びとして認識できる根拠を伝える】【学生の行動を導く】【肯定的に返す】という教育的アプローチを意図的に行うことが成熟につながると考える。教員は、学生一人ひとりのレディネスや特徴を踏まえ、学習の機会を逃さず、様々な角度から繰り返しアプローチしていくことが必要であると考え。このように教員による指導の積み重ねによって、学生も学習を積み、看護師という専門職者として成長し成熟性を身に付けていくことができると考える。

Ⅵ 研究の限界と今後の課題

本研究は対象者数が6名と少なく、また1短期大学教員に対象が限定されており、結果を一般化するには限界がある。今後は対象者を増やし、また学生の傾向の変化にあわせて本研究を継続していく必要がある。

Ⅶ おわりに

教員は、本研究において抽出された9個のカテゴリー内容【看護職を目指すためのマナーや規範を示す】【視野を広げる】【熟考を促す】【学びの仕掛けをつくる】【学習の方法を伝える】【過度の緊張を解く】【学びとして認識できる根拠を伝える】【学生の行動を導く】【肯定的に返す】を教育実践に活用していることが分かった。今後も学生のレディネスを踏まえ、学生の理解度、実践場面においての考え方を教員が理解した上で、未熟さ

を否定せず、在学期間を成熟性を伸ばすための期間として十分にアプローチすることが必要である
と考える。

引用文献(References)

- 1) 山崎美恵子、梶本市子、矢野智恵他14名, 看護基礎教育課程における学生の看護実践能力習得の課題に関する報告, 高知学園短期大学紀要, **2011**, 41, 73-80.
- 2) Ji Young Lim, Myung Ah Kim, Sook Young Kim, et al, The effects of a cognitive-behavioral therapy on career attitude maturity, decision making style, and self-esteem of nursing students in Korea, *Nurse Education Today*, **2010**, 30, 731-736.
- 3) S Carlson, W J Kotzè, D Van Rooyen, A self-management model towards professional maturity for the practice of nursing, *the South African journal of nursing*, **2005**, 28(5), 44-52.
- 4) Susan Mattson, Coping and developmental Maturity of R.N. Baccalaureate Students, *Western Journal of Nursing Research*, **1990**, 12(4), 514-524.
- 5) 菱沼典子, 大橋久美子, 看護学生の生活体験, 生活習慣の現状と教員から見た特徴, *看護教育*, **2013**, 54(1), 42-48.
- 6) 福井里佳, 看護基礎教育における「問うこと (questioning)」に関する海外文献検討, *日本看護学教育学会誌*, **2012**, 22(1), 35-45.
- 7) 浅見多紀子, 看護学生の看護教育におけるストレスと身体的・精神的症状との関連, *埼玉医科大学短期大学紀要*, **2010**, 21, 31-47.
- 8) 伊藤朗子, 新井祐恵, 山本純子他3名, 成人看護学実習における学生の看護実践能力への自信度と関連要因の分析—学年, 実習過程評価, 実習環境の検討—, *千里金蘭大学紀要*, **2013**, 10, 47-54.

Report

Analysis of Educational Approaches for Raising Maturity Used as the Basis for Students' Nursing Competence Acquisition

Noriko MASAHIRA*, Akiko YOSHIDA

Abstract: The purpose of this paper is to clarify educational approaches by teachers for growing maturity used as the basis for students' nursing competence acquisition. We used a qualitative and inductive study design for the teachers engaged in the lecture, practice, and training of nursing basic education in our department at Kochi Gakuen College. As a result, nine categories were extracted as educational approaches for the teachers to raise maturity in students: showing a norm, extending a view, making students consider carefully, building a learning devise, telling study methods, solving excessive strain, telling a basis which can be recognized as learning, leading a behavior of students, replying in the affirmative. It was thought that in order they raised students' maturity, they needed to approach this matter fully through various scenes until the students started to work.

Key words: nursing basic education, nursing student, maturity, educational approach